

表面処理、混合と塗布方法の説明

一般注意事項：

- 長期にわたるARC CS2システムの性能にとって適切な表面処理が非常に大切です。
- 準備されたコンクリート面は構造的に強固で、汚染が完全に除去されている必要があります。表面は湿っていてもよいが、水が溜まっていたは避けません。スラブオングレード塗布の場合、ペーパーバリアが推奨されます。
- ペーパーバリアがない場合、透湿性をチェックしてください。
- 表面処理と塗布の詳細は、コンクリート用のARC塗布手順を参照するか、ARC専門家までお問い合わせください。

表面洗浄とプロファイル作成方法

ハイドロブラスト	表面の傷つけ	研磨
スチールショットブラスト	乾式研磨ブラスト	

古いコンクリートに固有：

- すべての表面汚染を完全に除去します：

古いコーティング	塵芥	レイタンス
水溶性塩	砕けたコンクリート	疎水性汚染物質

- コンクリート面を乳化アルカリ、水溶性クリーナーでグリーン、オイル、アカを除去し、完全に洗い流します。
- 上記の表面洗浄方法の1つまたは複数を使用します。

新しいコンクリートに固有：

- 新しいコンクリートは準備する前に28日以上硬化させる必要があります。
- 上記の表面洗浄方法の1つまたは複数を使用します。

ARC CS2: 混合

混合および塗布しやすくするために、材料温度を21°~32°Cとします。各キットは正しい混合比率でパッケージされています。さらなる配分が必要な場合は、各キットを正しい混合比に従って使用します。

混合比	重量比	容積
A : B	3.1 : 1	3.0 : 1

ARC CS2を混合する前に、パートAを予め混合し、そこに溜まっている強化剤を混ぜ込みます。

- 手動で混合する場合には、パートBをパートAに加え、均一に混ぜ合わせて、縞模様がなくなり、色と濃度が一緒になるまで混合します。動力混合は、空気を混入させない「Jiffy」ブレードなどを付けた可変速度、高トルク、低速ミキサーで行います。
- 製品は定められた作業時間内に塗布できるよりも多い量を混合しないでください。

ARC CS2: 塗布

- ARC CS2は、ノッチ付きヘラ、スプレーシステム、ブラシ、またはリントフリーの短毛ローラー（モヘアなど）を使用し、ローラーにより塗布できます。
- ARC CS2を塗布する際、以下の条件を満たしている必要があります：1コートの膜の厚さが250 μm~375 μm
- 塗布温度範囲が10°C~35°C（基材）
- 浸漬に対する最大限の保護を与えるために、最小2コートシステムが推奨されます。

テムが推奨されます。

- ARC CS2はエアレススプレー機器で溶剤による希釈なくスプレー塗布できます。機器の仕様と推奨については、最寄りのARC販売店にお問い合わせください。
- 初回のコーティングを75~125 μmで塗布します。これを繰り返して最終的な第1コートに必要な厚さを達成します。垂直や頭上塗布の場合、膜の厚さが薄くなります。それを補足するために、追加的なコートが推奨されます。
- ARC CS2の複数コートを塗布する場合、膜に汚染がなく「軽荷重」状態以上に硬化していない限り追加的な表面処理は不要です。下の硬化スケジュールチャートをご覧ください。この状態を超えた場合、軽くブラスト処理するか研磨してから研磨カスを除去する必要があります。軽荷重硬化状態になる前に、ARCビニルエステルコーティングを除く任意のARCエポキシ材料でARC CS2を上塗りすることもできます。

塗布面積/拡散

厚み	ユニットサイズ	塗布面積
500 μm	16リットル	32.00 m ²

可使時間 - 分

	10°C	16°C	25°C	32°C
16リットル	45分	35分	20分	15分

「可使時間」は混合を始めた時点から始まります。

最低塗布温度は10°Cですが、塗布しやすい温度は25°Cです。

硬化スケジュール

	10°C	16°C	25°C	32°C
通行量	16時間	12時間	10時間	6時間
軽荷重	36時間	24時間	16時間	9時間
全荷重	64時間	40時間	30時間	20時間
全薬品耐性	180時間	140時間	100時間	80時間

材料が「通行」に達した後の65°Cでの強制硬化により、硬化時間が8時間と通行時間ほど短縮されます。

洗浄

ARC CS2は短時間で固体塊に硬化します。できる限り早急にクリーンアップを始め、材料がツールに固着するのを防止します。ツールは、市販されている溶剤（アセトン、キシレン、アルコール、メチルエチルケトン）を使用して、使用後直ちに洗浄してください。硬化してしまうと、材料を剥し落とさなければなりません。

保管

温度範囲10°C~32°Cで保管してください。輸送中に時折この範囲から逸脱することがありますが、これは問題ありません。保管期間は未開封容器で2年です。時間の経過につれて強化剤の沈殿や分離が起きることがあります。パートAとパートBを混合する前に各液体成分をそれぞれ十分に混合してください。

安全性

製品をご使用になる前に、現地の適切な安全性データシート（SDS）または安全性シートをご確認ください。

適切な場合、標準的な密閉空間立ち入りおよび作業手順に従うようにしてください。